

2022 年度自己評価・関係者評価

学校法人琴似キリスト教学園

認定こども園琴似教会幼稚園

1. 教育理念・教育目標

<p>保育の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の精神に基づいて一人ひとりの個性を大切に子どもたちの心身を育て「共に生きる喜び」を伝える。 ・聖句『光の子として歩みなさい』（エフェソの信徒への手紙 5 章 8 節） <p>保育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神さまに愛され守られていることを知る ・自分らしくのびのびと表現する ・自分のこともみんなのことも大切に思う

2. 2022 年度の重点目標

<p>① 神さまに愛され守られていることを知り、安心して過ごす。</p> <p>② 自分の好きな遊びを見つけて友だちや保育者とじっくり遊び込むことが出来るよう、保育者の関わり方・遊びの内容・環境構成に十分な配慮と計画性をもって保育を行う。</p> <p>③ 新園舎での保育、給食開始、園児と職員の増加等様々な変化がある中で、園児と職員の健康と安全を守る体制の構築を目指し、適宜見直して対応する。</p> <p>④ 長時間の保育を受ける子どもへの必要な援助を行うとともに、園全体が安心感と親しみをもって相互に関わることのできるよう幼稚園時代から大切にしてきた温かい雰囲気を絶やさないよう努める。</p> <p>⑤ 日常の様々な場面で、お互いの気づきを伝え、尊重し合い、共に助け合いながら保育の目標に向かっていくための具体的な対応に取り組む。</p>

3. 取り組みと評価（評価は 5 段階）

区分	評価項目・内容	評価	取り組み状況
教育・保育目標	園の建学精神や教育・保育目標の理解	4	認定こども園開園に伴い、認定こども園教育・保育要領の内容を深く理解することが必要な年度であった。目標に向かってのねらいの設定を実践と学びの繰り返しの中で進めた。
	認定こども園教育・保育要領の理解と、子どもの実態に即した目標の設定	4	
	目標は前年度の反省を生かしているか	4	

	目標は社会の要請や保護者の願いを反映しているか	4	者の願いの一致を確認する事ができた。
ねらい・保育内容	乳児期の園児の教育と保育は、その特性に合わせて、適切に行われているか	4	<p>【健やかに育つ】個人差の理解や成長の見通しが難しく、這う、立つ、歩くなどして体を動かす遊びでは援助の仕方など難しく思う場面もあった。個々の成長に合わせて食事の順番を柔軟に変更できた点は良かった。</p> <p>【気持ちを通わせる】日々の生活の中に歌やわらべ歌、手遊びを用いてのふれあいを多く持てた。適切な声掛けができるように、話し合う機会を多く持った。</p> <p>【感性が育つ】五感を刺激したり手指を使う玩具が不十分だった。一人ひとりの興味や成長発達に合わせてこまめに設定し、興味・感心を引き出せるようにしたい。</p> <p>【全体として】 個々の気持ちや、生活リズムに合わせる保育ができたが、個人差の理解や成長の見通しが難しく、基本的信頼関係の中で安心・安全な保育ができるよう、話し合いの機会を多く持つよう努めた。</p>
	1歳から満3歳未満の園児の保育はその特性に合わせて、適切に行われているか	4	<p>【健康】日々の繰り返しの中で生活リズムが整うよう努めた。「やりたい」と「できる」の差を埋めるよう根気よく援助したことで、出来た時の喜びを全身で表す姿が見られた。保育者のやり易さを優先しそうな事もあったが、保育のねらいを共通認識できるよう努力を重ねた。</p> <p>【人と関わる力】思い通りにならない時の立ち直りや、他児とのぶつかり合いの際には、相手の思いもくみ取れるよう十分な時間をかた。言葉で伝えることを大切にすることが、子ども自身の気づきに繋がったと思う。互いに頷いて認め合ったり、物の貸し借りもできるようになり、集団の中で育つ力の大きさを改めて感じた。</p> <p>【環境に関わる力】散歩中や公園でも近隣の方との様々な関わりがあった。お店のディスプレイや庭先の花にも興味を示し、秋には毎日木の実を拾い集めて楽しんだ。遊具の色合いや質感等更に工夫を凝らしていきたい。手作り玩具も子どもの状態に合わせて増やしていきたい。</p> <p>【言葉】優しい表情や口調の声掛け、心地良いリズムの言葉を使うなどを心がけた。子どもに伝わる言葉かけの難しさを覚える事もあった。イメージを膨らませるよう</p>

		<p>な言葉かけは、保育者の感性によるところも大きく、気持ちにゆとりを持つことの必要を痛感した。</p> <p>【表現】空から舞い落ちる葉っぱと一緒に心躍らせ体も動かして喜びを表現する姿が見られた。子どもの内側から発せられる表現を大切に受け止め、豊かな経験をする事の大切さを目の当たりにした。興味の先を受け止め、子どもの表現欲求が満たされるような柔軟な保育が出来たらと思う。</p> <p>【全体として】快適に心地よく生活し、安定した気持ちで健やかに成長できるよう、細やかな配慮と工夫を心がけた。計画当初は緩やかな担当制で基本的信頼関係を築くところからスタートさせたかったが、思うような人員配置が出来ず、保育観や基本的了解事項の一致も難しかったが、根気よく話し合う中で、少しずつゆとりが出てきた。</p>
	<p>満3歳以上の園児の教育と保育は、その特性に合わせ、適切に行われているか</p>	<p>3+</p> <p>【健康】 戸外活動を多く取り入れ、気持ちが解放された環境の中で、積極的に活動できた。コロナ対策での手洗い習慣、熱中症対策としての衣服調整や水分補給など、子ども自らが意識して取り組めるようになった。</p> <p>【人と関わる力】 気持ちの安定を大事に丁寧な保育を心がけたが、保育者の多さが逆に作用し、自分自身や友だちと協力して問題を解決する力を育むことの妨げになった面もある。子どもを信頼し、見守る事を大事にした。年長組が体験した動物園や水族館を園全体のごっこ遊びに発展させ、自分達の思いと力で取り組む活動は次の意欲に繋がった。今後も子どもの興味関心を捉えて、仲間と遊びを作り出せるよう適切な働きかけをしていきたい。</p> <p>【環境と関わる力】 身近な環境にその子なりの興味や関心を示す姿を大事にしてきた。近隣の公園では小さな発見も多く、楽しい活動ができた。生活に必要な表示を美しく整え、日常生活に使う物や絵本や遊具を使いやすく整える等、身近な部分での整備が不十分であった。</p> <p>【言葉】 話を聞いたり、聞いて理解してイメージを膨らませたり共有できるような経験を大切にしたい。郵便ごっこをはじめ、工夫して伝えようとする姿が多く見られた。拙い表現でもその思いを大切に、言葉で伝え合う</p>

		<p>力が育つよう取り組んでいる。</p> <p>【表現】 実際の表現としては素朴でわかりにくい事も多いが、表現する喜びや楽しさが感じられているか、何を表現したいのか等、一人ひとりの表現の理解の大切さを感じる。様々な表現活動のための素材研究、環境構成と制作物の展示方法の工夫が必要。</p> <p>【全体】 他者と自分の違いを認め受け入れ合いながら集団としても育っていけるようその時々に応じて援助する一方、子ども理解の難しさも痛感させられた。目の前の子どもが出している沢山のサインに気づき、理解し、見通しを持った計画のもとに柔軟な対応ができるよう努めたい。</p>
教育・保育実践の配慮	乳児期の配慮	4 <p>保護者との信頼関係を第一に乳児の保育を開始した。戸惑うこともあったが、一人ひとりの状況をよく理解し、その時々の子どもの細やかな観察や具体的な場面での伝え漏れが無いようするなど細心の注意を払った。経験のある保育者だけでなく経験の浅い保育者も一緒になって相談しながら保育を進められたのは良かった。</p>
	1歳以上満3歳未満の配慮	4 <p>園庭の幼児向け遊具による事故をどう防ぐか等具体的項目について試行錯誤を繰り返し、改善に向かっている。受容的な態度で子どもと関わる姿勢は一致出来ていた。保育者間での情報・意識の一致の重要性を痛感している。</p>
	教育・保育全般の配慮	4 <p>こども園は一人ひとりの違いを受け止め、互いに認め合えるような小さな社会でありたいと願う。それは幼稚園時代からの変わることのない姿勢だが、特に3歳児の保育歴の多様性や各家庭の価値観の相違等、個別的な対応がより必要となった。</p>
健康・安全	健康支援	4+ <p>新型コロナをはじめとする様々な感染症対策への取り組みは、行政通達の正しい理解、情報収集や、保護者への情報の周知と協力依頼を繰り返しながら対応してきた。細やかな健康観察と衛生的な環境の確保、保護者との連携などに更に努めていきたい。</p>

	食育の推進	4+	管理栄養士による食育指導に加え、年度途中から日々の給食のお知らせにも知恵を絞り保護者に興味を持ってもらえるよう工夫した。調理等の楽しい経験の積み重ねが、食を通じての子どもの育ちに生かされるよう工夫を重ねていきたい。行事食を増やしたり、地産地消・地域の伝統食等、取り組みの幅を広げていけたらと思う。
	環境衛生管理・安全管理	4	様々な環境整備や安全対策について、気づいた段階で見直しを計りながら取り組んできた。危険予知訓練を強化し、即座に周囲に伝え、迅速に対応できるよう園内の協力体制と意識の向上に努めたい。不審者対応・不適切保育・送迎事故など周囲の目が厳しくなる中、子どもや保護者と共に協力して危険個所を見つけたり情報を伝え合ったりできればと思う。救命救急研修の継続受講や、演習が出来なかったので、次年度の課題としたい。
	災害への備え	4	大きな災害に見舞われた際に状況に応じた対応を組織的に行うための訓練はまだ不足している。園舎が新しくなったり、職員の大幅増員により、個々の役割分担を理解して即座に対応するための準備、防火扉の扱いの訓練、非常持ち出し品の整備等対応について遅れが目立つ。地域の防災訓練への参加などは積極的に参加するようしていきたい。 一定の緊張感を常に保ち、安全な環境の保持と、感染症への備え、災害や危険から子どもと職員を守るための危機管理体制の強化に努めなければならないと痛感する。
子育て支援	子育て支援全般	4	地域の関連機関との連携は強められているので、今後も、社会の中で子育てが円滑に行える環境を維持していきたい。
	園児への子育て支援	4	長く継続してきた保護者の保育参加を新型コロナの影響で中断している。こども園としてどのような形で保育参加ができるのか検討し、実現させたい。人種や言語・文化の違いに対応できるよう実態に合わせて支援してきたが、言葉の壁を超えることは難しく、今後日本で教育を受ける子どもが小学校教育に適応できるような日本語の獲得に向けての働きかけにも力を注ぎたい。
	地域における子育て支援	4	都度募集の「子育て広場」には育児相談を希望して参加する保護者も増えてきているので、活動後に時間を取ってゆっくりと話ができる体制を取っている。一時保育も順調にスタートし可能な範囲で受け入れている。

資質向上	職員の資質向上	3+	初めての取り組みとなった乳児保育、給食をはじめ試行錯誤の連続であり、担当する職員の資質向上は急務であった。調理部門では給食の経験者を中途採用したことにより全体的な質は向上したが、今後も継続課題となる。保育者自身の自己評価を開始した。自身を振り返り、前向きに保育に取り組むことが自己実現に繋がり一人ひとりの人生が充実することを願う。一方、園全体の自己評価が、保育の質の向上につながるよう日々の記録・振り返りと改善・計画の練り直しなど、忍耐強く組織全体での強化を図りたい。
	職員研修	3+	前年と比較し、園内研修の時間の確保や参加者の調整など多くの課題を残した。園の教育保育方針の浸透、具体的課題への取り組みのため具体的な改善が急務である。集合型・オンデマンド・オンライン研修を組み合わせることで研修参加の機会を確保するとともに、研修内容の共有を図ってその成果を生かせるようにしていきたい。認定こども園となり、複雑になった職務分担に対応できるよう計画的な研修受講と研修成果の活用を目指していきたい。 テーマを持った公開保育を行い小学校教員等との意見交換や札幌国際大学から講師を招いての保育研究を継続できたことは大変に良かった。
総合	<p>認定こども園移行という大事業の中で、事前計画の見直しや年間を通じての職員の増員など、試行錯誤の連続であった。職員の意思統一と協力体制の強化が何より必要であったが、急激な増員に対応が追いつかず難しさを覚えることも多かった。その中でも「一人ひとりの子どもの豊かな育ち」と「大人も子どもも共に支え合い育ち合う」との基本姿勢を崩すことなく歩むことが出来たのは、仕事を通して与えられる喜びの大きさと、職員の努力と、各々の人間性をもって支え合おうとした結果であると思う。</p> <p>園舎引き渡しから4日後に開園したこども園が比較的早期に保護者との信頼関係を築き、いくつかの改善すべき問題に前向きに取り組むことができた。その中で改善すべき点が多く浮き彫りになっている。特に年度途中に入園する満3歳児の受け入れ態勢の整備と、保育の質の向上に関わる様々な課題である。保育者の確保が困難な時代に順調に職員の採用ができたことは幸いだが、経験の浅い保育者が増えた中で、研修体制の強化と研修成果を保育に反映させることと、職員の連携体制作りにも真剣に取り組むたい。</p> <p>キリスト教保育の原点を見失うことなく、見えない守りと導き、多くの支えに感謝しつつ、専門性をもって見直しや改善を進めていきたいと切に思う。</p>		

5. 関係者評価委員会の総合的な評価

(施設関係者委員会：2023年2月3日実施)

結果	評価の理由
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達の表情が安心感に溢れ、保育者も大きな声を出さずに一緒に楽しんでいる様子が伺えた。保育中さりげなくアドバイスする園長等の対応も好ましい。新しい園舎全体は開放的で色合いや飾りつけにも工夫が施され、人的・物的にも心地よい空間になっている。 ・ 0歳からの保育園児を受け入れ社会ニーズに応えたことは良い決断だと思う反面、職員の増加やシフトの複雑さなど、職員間の連携が大変だろうと想像できる。その中でも、認定こども園としての教育・保育課程をしっかりと学び、見直したり、話し合ったりしながら保育を進めてきた点は大きく評価できる。 ・ 不適切保育が社会問題となっているが、採用の段階から園の保育方針に共感できる職員の採用に努めたり、保育観共有のための研修、公開保育の実施で外部の意見を聞いたり、普段から密室にならないよう開かれた保育がなされているとの説明に安心した。社会不安が大きい時代の中で、保育者自身も他者と自分の違いを認め合い、助け合いながら、ストレスを溜めないような相互配慮が必要と思う。 ・ 自己評価の中で幼児の保育について移行初年度の力の分散を理由に前年より評価を下げたが、お互いの努力と成果を認め合い、保育者間で喜びを分かち合う前向きさも大事なので、概ね達成できている4として評価したい。 ・ 災害対策や不審者対応などにも良く取り組んでいる様子だが、地域の消防団との連携により迅速な救命救急に繋げる等、地域の中で子ども達の成長を一緒に見守る関係性の構築をより一層深めていけたら良いと思う。 ・ 70年の歴史を経て幼稚園から認定こども園へと移行したが、これまでに培ってきた土台の上に立って、広く社会に目を向けつつ、何よりもまず目の前の子ども達を大切に、キリスト教主義のこども園に相応しい思いやりと優しさをもって歩んで行けたら良いと思う。